



財務専門官

2018年 専門試験（記述式）の出題例

【憲法】

衆議院の解散に関する次の問いに答えなさい。

(1) 内閣による衆議院の解散について、解散権の根拠及びどのような場合に解散が許されるのかを論じなさい。

(2) 衆議院の自律的解散について論じなさい。

複製禁止

【民法】

次の事例を読み、以下の問いに答えなさい。(1)と(2)は、それぞれ独立した問いであり、相互に関連しないものとする。

事例

平成29年5月4日、Xは、Aから土地甲を無償で譲り受けた際に、贈与契約を原因とする甲の所有権移転登記手続に関する事務を友人であるYに委任した。このためYはXの実印、印鑑証明書、甲の権利証を所持・管理することとなった。その後、自己の事業が不振で生活にも窮するようになったYは、平成29年7月10日、Xの実印を無断で利用して契約書を作成し、印鑑証明書を提示した上で、自己をXの代理人として、X所有の甲を5,000万円でZに売り渡した。Zは、甲にマンションを建築して賃貸経営を行うことを予定しており、平成29年7月20日、甲の土質調査や測量を業者に依頼して行い、総額で200万円の費用を支出していた。なお、ZはYが甲についての本件売買契約に係る代理権を有していないことを知らなかった。

(1) Zは、Xに対し、どのような請求をすることができるかを論じなさい。

(2) Zは、Yに対し、どのような請求をすることができるか。Zの請求に対するYの反論も含めて論じなさい。

【経済学】

生産者行動に関する次の問いに答えなさい。

(1) 生産関数とは何か、生産関数の一般的な形状を図示するとともに、下記の用語を用いて説明しなさい。ただし、投入物及び産出物はいずれも一種類であるとする。

【用語：投入量、産出量】

(2) サunk・コスト（埋没費用）について、営業用に新車を購入した企業が、営業活動を休止することを例にして説明しなさい。

(3) 平均総費用と限界費用の違いを、数学的考えを用いて簡単に示した上で、損益分岐点と操業停止点について図を用いて説明しなさい。なお、企業はプライス・テイカーであるものとする。

【会計学】

固定資産に関する次の問いに答えなさい。

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の意義について、それぞれ具体例を三つ挙げながら説明しなさい。

(2) 有形固定資産に関して行われる支出には、資本的支出及び収益的支出がある。それぞれの支出について「有形固定資産の取得原価」という語句を用いて説明しなさい。

(3) 有形固定資産の減価償却の意義に触れつつ、定額法及び生産高比例法について、それぞれの計算方法と特徴を説明しなさい。なお、残存価額はゼロとする。

【財政学】

租税に関する次の問いに答えなさい

(1) 租税原則として、公平、中立、簡素の各原則が挙げられるが、それぞれについて簡潔に説明しなさい。

(2) 労働の供給によって所得を得て、その所得の全てを消費財の購入に充てている労働者がいる。下図は、消費財と余暇から効用を得るこの労働者の予算制約線 MM' と無差別曲線 U を表しており、均衡点は点 E となっている。

この労働者に課税後の効用水準が同じになるように課税を行う。この場合において、(a) 所得税（労働所得に比例的に課される税）を課したときの均衡点の変化、(b) 一括固定税を課したときの均衡点の変化、(c) 得られる税収の観点から所得税と一括固定税のどちらが望ましいか、について図と下記の用語を用いて説明しなさい。ただし、図は一つにまとめること。

なお、消費財と余暇は上級財とし、余暇時間とは労働時間以外の全ての時間とする。

用語：代替効果、所得効果、超過負担

